

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科
診療科長 鯉渕 智彦（こいぶち ともひこ）医師

訪問予定先： シエラレオネ

参加期間：平成 26 年 12 月 28 日～平成 27 年 1 月 30 日（約 1 か月）

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地の疾病発生及び診療・対策状況等について調査及び評価を実施するとともに、必要に応じ助言を行う。

日本における WHO ミッションへの日本人専門家派遣の実績：

平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、3 回にわたり計 5 人（延べ 6 人）の専門家が派遣されています。

平成 24 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、1 名の専門家が派遣されています。

平成 26 年 5 月、8 月、11 月にリベリアに、7 月、10 月、11 月、12 月にシエラレオネに、WHO の要請を受けて、エボラ出血熱対策の専門家として、10 名（延べ 11 名）の専門家が派遣されています。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>